

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-37811

(P2010-37811A)

(43) 公開日 平成22年2月18日(2010.2.18)

(51) Int.Cl.

F 1

テーマコード (参考)

E O 4 G 5/00 (2006.01)

E O 4 G 5/00 3 O 1 Z

E O 4 G 7/32 (2006.01)

E O 4 G 7/32 B

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2008-201918 (P2008-201918)

(22) 出願日 平成20年8月5日(2008.8.5)

(71) 出願人 000101662

アルインコ株式会社

大阪府高槻市三島江1丁目1番1号

(74) 代理人 100069578

弁理士 藤川 忠司

(74) 代理人 100154014

弁理士 正木 裕士

(74) 代理人 100154520

弁理士 三上 祐子

(72) 発明者 清水 伸洋

大阪府高槻市三島江1丁目1番1号 アル
インコ株式会社内

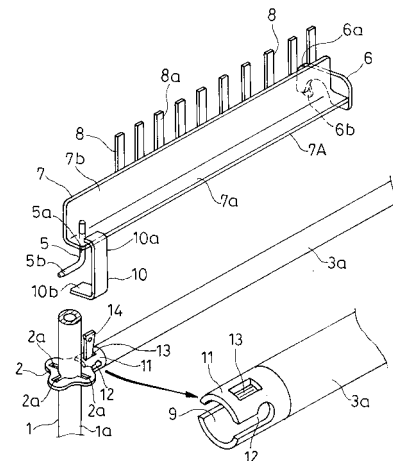
(54) 【発明の名称】 建築資材の仮設足場への仮置き装置

(57) 【要約】

【課題】 建築資材を所要高さ位置に仮置きする際に、所要高さ位置から建築資材が不測に落下しないよう安全に仮置きすることができるとともに、枠組み作業に支障を来さないような位置に仮置きすることができる仮置き装置を提案する。

【解決手段】 支柱1のフランジ部材2に楔止めされる単管3aに沿って、そのフランジ部材2の楔孔2aを利用してこれに差し込み係合する差し込み金具5を一端部に設け、他端部に単管3aにフック状に係合する係合金具6を設けた装置本体7が配置され、該装置本体7にその長手方向に隣接して並立状態に建築資材3を仮置き保持するための保持部8が設けられてなる。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支柱本体に所要間隔でフランジ部材が固着されてなる支柱間に、前記フランジ部材に楔止めされて安全手摺用或いは支柱間連結用の単管が順次高所に向かって多段状に枠組みされる仮設足場において、単管が高所に向かって多段状に枠組みされる際に、その枠組み作業途上で単管や足場板支持用ブラケット等の建築資材を、仮設足場の所要高さ位置に仮置きするための仮置き装置であって、支柱のフランジ部材に楔止めされる上記単管に沿って、そのフランジ部材の楔孔を利用してこれに差し込み係合する差し込み金具を一端部に設け、他端部に単管にフック状に係合する係合金具を設けた装置本体が配置され、該装置本体にその長手方向に隣接して並立状態に建築資材を仮置き保持するための保持部が設けられてなる建築資材の仮設足場への仮置き装置。

10

【請求項 2】

前記装置本体は、水平片部と垂直片部とで構成された断面L字状の帯板状部材からなり、前記差し込み金具は、前記装置本体の水平片部に垂直に固着される垂直取付部と該垂直取付部に対してL字状に延びる水平差し込み部とからなり、前記係合金具は単管の外周面に沿って係合するフック金具からなり、前記保持部は、前記装置本体の垂直片部から上方に向かって突出状に固着され、建築資材の端部開口孔に係嵌可能な突状片からなる請求項 1 に記載の建築資材の仮設足場への仮置き装置。

【請求項 3】

前記装置本体の一端部に設けられる差し込み金具の近傍に、その上端部が装置本体に固着される垂直取付部とこれよりL字状に延びて支柱本体の側面に当接する水平当接部とからなる回転防止金具が設けられてなる請求項 1 または 2 に記載の建築資材の仮設足場への仮置き装置。

20

【請求項 4】

前記フック金具に自重ロック形のロック片が取り付けられてなる請求項 2 に記載の建築資材の仮設足場への仮置き装置。

【請求項 5】

前記装置本体を前記単管に沿うように取り付けるに当たって、該装置本体を水平な単管に対して上方に直立状に対向させて該装置本体の一端部の差し込み金具の水平差し込み部をフランジ部材に対して垂直状となし、この状態で該水平差し込み部をフランジ部材の楔孔に上方から嵌合し、しかる後に該装置本体を前記単管に沿うよう水平状態に回転させることによって前記差し込み金具の垂直取付部がフランジ部材の楔孔に嵌合位置し、前記水平差し込み部がフランジ部材の裏面側に沿うように配置され、これによって装置本体の一端部がフランジ部材に接した状態で差し込み金具がフランジ部材に係合し、且つ装置本体が単管に沿うように配置され、しかも装置本体の他端部の係合金具が単管に係合するようになっている請求項 1 ～ 4 の何れかに記載の建築資材の仮設足場への仮置き装置。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、建築現場に枠組み仮設される仮設足場において、仮設足場の枠組みの際に、仮設足場を構成する安全手摺等の建築資材を、枠組み作業を能率的に行うために枠組み作業途上の仮設足場に仮置きするための仮置き装置に関する。

40

【背景技術】

【0002】

図 8 に示すように、建築現場では、新築や改裝作業のために、建物 H の周囲に仮設足場 A が枠組み仮設される。この仮設足場 A は、単管よりなる支柱本体 1 a に複数の板状のフランジ部材 2 が所要間隔に溶接固着された支柱 1 が、建物 H の周囲に沿うように直立配設されるとともに、各支柱 1、1 間に安全手摺用や支柱 1、1 間を連結する支柱間連結用の単管 3 a がフランジ部材 2 に楔止めされ、また各支柱 1、1 間に足場台 4 を取り付けるための足場台支持用ブラケット 3 b がフランジ部材 2 に楔止めされ、このようにしてこれら

50

単管 3 a や足場台取付用ブラケット 3 b 等の建築資材 3 が地上の最下層から順次高所に向かって多段状に枠組みされる。

【0003】

この際に、建築資材 3 を用いて順次最下層から高所に向かって枠組みされるにつれて、建築資材 3 を地上から高所にいちいち運搬するのでは不能率であるから、高所作業になるにつれて、図示のように所定高さ位置に枠組みされている足場台 4 に、多数の単管 3 a や支持ブラケット 3 b 等の建築資材 3 を一旦仮置きしておき、その位置から建築資材 3 を用いてその後の枠組み作業を行うようにすれば、いちいち地上から建築資材 3 を運搬するのに比べて枠組み作業を格段に能率的に行うことができる。

【0004】

しかし、これら建築資材 3 を足場台 4 に仮置きするのに、図示のように足場台 4 上に建築資材 3 を載置しておくだけであるから、作業者が建築資材 3 に足を取られたり、建築資材 3 が不測に足場台 4 上から落下する危険性が多分にあった。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

上記のように、建築資材を所要高さ位置に仮置きするのに、足場台上に単に載置するだけであるから、仮置き状態が極めて不安定であり、また枠組み作業の支障にもなる。

【0006】

そこで本発明は、建築資材を所要高さ位置に仮置きする際に、所要高さ位置から建築資材が不測に落下しないよう安全に仮置きすることができるとともに、枠組み作業に支障を来さないような位置に仮置きすることができる仮置き装置を提案することを解決課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するための手段を、後述する実施形態の参照符号を付して説明すると、請求項 1 に係る発明は、支柱本体 1 a に所要間隔でフランジ部材 2 が固着されてなる支柱 1、1 間に、前記フランジ部材 2 に楔止めされて安全手摺用或いは支柱間連結用の単管 3 a が順次高所に向かって多段状に枠組みされる仮設足場 A において、単管 3 a が高所に向かって多段状に枠組みされる際に、枠組み作業を能率的に行うためにその枠組み作業途上で単管 3 a や足場板支持用ブラケット 3 b 等の建築資材 3 を、仮設足場 A の所要高さ位置に仮置きするための仮置き装置であって、支柱 1 のフランジ部材 2 に楔止めされる上記単管 3 a に沿って、そのフランジ部材 2 の楔孔 2 a を利用してこれに差し込み係合する差し込み金具 5 を一端部に設け、他端部に単管 3 a にフック状に係合する係合金具 6 を設けた装置本体 7 が配置され、該装置本体 7 にその長手方向に隣接して並立状態に建築資材 3 を仮置き保持するための保持部 8 が設けられてなる構成を採用してなるものである。

【0008】

また請求項 2 に係る発明は、前記装置本体 7 は、水平片部 7 a と垂直片部 7 b とで構成された断面 L 字状の帯板状部材 7 A からなり、前記差し込み金具 5 は、前記装置本体 7 の水平片部 7 a に垂直に固着される垂直取付部 5 a と該垂直取付部 5 a に対して L 字状に延びる水平差し込み部 5 b とからなり、前記係合金具 6 は単管 3 a の外周面に沿って係合するフック金具 6 a からなり、前記保持部 8 は、前記装置本体 7 の垂直片部 7 b から上方に向かって突出状に固着され、建築資材 3 の端部開口孔 9 に係嵌可能な突状片 8 a からなる請求項 1 に記載の構成からなるものである。

【0009】

また請求項 3 に係る発明は、前記装置本体 7 の一端部に設けられる差し込み金具 5 の近傍に、その上端部が装置本体 7 に固着される垂直取付部 10 a とこれより L 字状に延びてし支柱本体 1 a に当接する水平当接部 10 b とからなる回転防止金具 10 が設けられてなる請求項 1 または 2 に記載の構成からなるものである。

【0010】

10

20

30

40

50

さらに請求項 4 に係る発明は、前記フック金具 6 a に自重ロック形のロック片 6 b が取り付けられてなる請求項 2 に記載の構成からなるものである。

【0011】

さらにまた請求項 5 に係る発明は、前記装置本体 7 を前記単管 3 a に沿うように取り付けに当たって、該装置本体 7 を水平な単管 3 a に対して上方に直立状に対向させて該装置本体 7 の一端部の差し込み金具 5 の水平差し込み部 5 b をフランジ部材 2 に対して垂直状となし、この状態で該水平差し込み部 5 b をフランジ部材 2 の楔孔 2 a に上方から嵌合し、しかる後に該装置本体 7 を前記単管 3 a に沿うよう水平状態に回動させることによって前記差し込み金具 5 の垂直取付部 5 a がフランジ部材 2 の楔孔 2 a に嵌合位置し、前記水平差し込み部 5 b がフランジ部材 2 の裏面側に沿うように配置され、これによって装置本体 7 の一端部がフランジ部材 2 に接した状態で差し込み金具 5 がフランジ部材 2 に係合し、且つ装置本体 7 が単管 3 a に沿うように配置され、しかも装置本体 7 の他端部の係合金具 6 が単管 3 a に係合するようになっている請求項 1 ～ 4 の何れかに記載の構成からなるものである。

【発明の効果】

【0012】

上記解決手段による発明の効果を、後述する実施形態の参照符号を付して説明すると、請求項 1 に係る発明によれば、支柱 1 のフランジ部材 2 に楔止めされる単管 3 a に沿って、そのフランジ部材 2 の楔孔 2 a を利用してこれに差し込み係合する差し込み金具 5 を一端部に設け、他端部に単管 3 a にフック状に係合する係合金具 6 を設けた装置本体 7 が配置され、該装置本体 7 にその長手方向に隣接して並立状態に建築資材 3 を仮置き保持するための保持部 8 が設けられてなるため、該保持部 8 に建築資材 3 の端部開口孔 9 を係嵌することによって、建築資材 3 は、支柱 1、1 間の単管 3 a に沿って仮設足場 A の所要高さ位置に確実に仮置き保持させることができ、作業者が作業中に建築資材 3 に触れても、建築資材 3 は保持部 8 から脱落することがなく安全に仮置きすることができ、しかも足場台 4 上に仮置きすることがないから、足場台 4 上での作業に支障を来すことがない。さらには建築資材 3 は直立状態に装置本体 7 に保持されるから、建築資材 3 が長尺のものであっても、これに制約されることなく仮置き保持させることができる。

【0013】

また請求項 2 に係る発明は、前記装置本体 7 は、水平片部 7 a と垂直片部 7 b とで構成された断面 L 字状の帯板状部材 7 A からなり、前記差し込み金具 5 は、前記装置本体 7 の水平片部 7 a に垂直に固着される垂直取付部 5 a と該垂直取付部 5 a に対して L 字状に延びる水平差し込み部 5 b とからなり、前記係合金具 6 は単管 3 a の外周面に沿って係合するフック金具 6 a からなり、前記保持部 8 は、前記装置本体 7 の垂直片部 7 b から上方に向かって突出状に固着され、建築資材 3 の端部開口孔 9 に係嵌可能な突状片 8 a からなるため、構成が簡単で安価に製作することができる。

【0014】

また請求項 3 に係る発明は、前記装置本体 7 の一端部に設けられる差し込み金具 5 の近傍に、その上端部が装置本体 7 に固着される垂直取付部 10 a とこれより L 字状に延びて支柱本体 1 a の側面に当接する水平当接部 10 b とからなる回転防止金具 10 が設けられてなるため、装置本体 7 に多数の建築資材 3 が取り付けられ、これらの大きな荷重が装置本体 7 に負荷しても、前記差し込み金具 5 と係合金具 6 と回転防止金具 10 とによって、確実に装置本体 7 は前記フランジ部材 2 および単管 3 a に取り付けられ、装置本体 7 がこれらの取付部から脱落することがない。

【0015】

さらに請求項 4 に係る発明は、前記フック金具 6 a に自重ロック形のロック片 6 b が取り付けられてなるため、装置本体 7 は一層確実に単管 3 a に係合保持させることができる。

【0016】

さらにまた請求項 5 に係る発明は、前記装置本体 7 を前記単管 3 a に沿うように取り付

けるに当たって、該装置本体 7 を水平な単管 3 a に対して上方に直立状に対向させて該装置本体 7 の一端部の差し込み金具 5 の水平差し込み部 5 b をフランジ部材 2 に対して垂直状となし、この状態で該水平差し込み部 5 b をフランジ部材 2 の楔孔 2 a に上方から嵌合し、しかる後に該装置本体 7 を前記単管 3 a に沿うよう水平状態に回動させることによって前記差し込み金具 5 の垂直取付部 5 a がフランジ部材 2 の楔孔 2 a に嵌合位置し、前記水平差し込み部 5 b がフランジ部材 2 の裏面側に沿うように配置され、これによって装置本体 7 の一端部がフランジ部材 2 に接した状態で差し込み金具 5 がフランジ部材 2 に係合し、且つ装置本体 7 が単管 3 a に沿うように配置され、しかも装置本体 7 の他端部の係合金具 6 が単管 3 a に係合するようになっているため、装置本体 7 は、差し込み金具 5 と係合金具 6 との簡単な係合手段にも係わらず、確実に装置本体 7 をフランジ部材 2 と単管 3 a に取り付けることができる。また装置本体 7 をボルト止めなどの面倒な固着作業を必要とせず上記簡単な係合手段によって取り付けることができるため、その取付作業を容易迅速に行うことができる。さらにまた装置本体 7 をフランジ部材 2 と単管 3 a とから離脱させる際には上記取付作業と反対の順序で行えばよいから離脱作業も容易迅速に行うことができる。このことは、例えば、建築資材 3 を用いて高所に向かって多段状に枠組みされるにしたがって、装置本体 7 の取付位置をたびたび高所に取り替えなければならないが、本発明では上述のように装置本体 7 のフランジ部材 2 や単管 3 a に対する取付や取り外し作業を容易迅速に行うことができるため、結果的に、仮設足場の仮設作業中での建築資材 3 の仮置き作業を能率的に行うことができることになる。

10

【発明を実施するための最良の形態】

20

【0017】

以下に本発明の好適な一実施形態を図面に基づいて説明すると、図 1 は、所謂一側足場と称される仮設足場 A を示し、従来と同じように、鋼製単管よりなる支柱本体 1 a に複数の板状のフランジ部材 2 が所要間隔に溶接固着されてなる支柱 1 が、建物 H の周囲に沿うように直立配設されるとともに、各支柱 1、1 間に、安全手摺用や支柱 1、1 間を連結する支柱間連結用の単管 3 a がフランジ部材 2 に楔止めされ、また各支柱 1、1 間に足場台 4 を取り付けるための足場台支持用ブラケット 3 b がフランジ部材 2 に楔止めされ、このようにしてこれら単管 3 a や足場台取付用ブラケット 3 b 等の建築資材 3 が地上の最下層から順次高層階に向かって多段状に枠組みされる。

【0018】

30

そして、本発明の特徴とする点であるが、図示のように、支柱間連結用の単管 3 a や足場台取付用ブラケット 3 b 等の建築資材 3 が独特構造の装置本体 7 によって単管 3 a に沿って仮置き保持されるようになっていることである。これによる利点は、上述の作用効果の項で説明したとおりである。

【0019】

本発明の特徴とする装置本体 7 の最良の実施形態は、図 2 ～図 7 に示すとおりであるが、まず図 2 によく表れているので、その構造を説明すると、装置本体 7 は、水平片部 7 a と垂直片部 7 b とで構成された断面 L 字状の帯板状部材 7 A からなり、該帯板状部材 7 A の一端部には、支柱 1 のフランジ部材 2 の楔孔 2 a を利用してこれに差し込み係合する差し込み金具 5 が設けられ、他端部に単管 3 a にフック状に係合する係合金具 6 が設けられ、該帯板状部材 7 A にその長手方向に隣接して保持部 8 が設けられる。該保持部 8 は、前記帯板状部材 7 A の垂直片部 7 b から上方に向かって突出状に固着され、後述のように建築資材 3 の端部開口孔 9 (図 7) に係嵌可能な板状の突状片 8 a からなる。

40

【0020】

前記差し込み金具 5 は、前記装置本体 7 である帯板状部材 7 A の水平片部 7 a を貫通して溶接によって該水平片部 7 a に垂直に固着される垂直取付部 5 a と該垂直取付部 5 a に対して L 字状に延びる水平差し込み部 5 b とからなる。

【0021】

前記係合金具 6 は単管 3 a の外周面に沿って係合するフック金具 6 a からなり、該フック金具 6 a は、図示のようにその先端部に自重ロック形のロック片 6 b が取り付けられて

50

、フック金具 6 a を単管 3 a に係合させることによって、ロック片 6 b が自重で単管 3 a の回りに潜り込みロック作用を良好にする作用を有する（図 6）。勿論、ロック片 6 b を設けなくて、フック金具 6 a だけでもよく、この場合にフック金具 6 a の U 字状係合部の係合深さをできるだけ深くすることが係合作用を良好にすることになる。

【0022】

また帯板状部材 7 A の一端部に設けられる差し込み金具 5 の近傍に、その上端部が帯板状部材 7 A の水平片部 7 a に固着される垂直取付部 10 a とこれより L 字状に延びて、後述のように（図 5）、支柱本体 1 a の側面に当接する水平当接部 10 b とからなる L 字状に折曲した板状の回転防止金具 10 が設けられる。

【0023】

前述のように、支柱本体 1 a にはその長手方向適当間隔にフランジ部材 2 が固着されているが、このフランジ部材 2 には、周方向等間隔の 4 箇所に楔孔 2 a が貫通して設けられる。単管 3 a の両端部は開口 9 しており、図 2 の矢印の方向に拡大して図示するように、該単管 3 a をフランジ部材 2 に楔止めするための連結部 11 が設けられ、この連結部 11 は、端部開口孔 9 を含んで二股状になってフランジ部材 2 に対して連結部 11 を差し込みことができる差込み孔 12 が形成されている。そして図示のように連結部 11 の差込み孔 12 をフランジ部材 2 に差し込み、差込み孔 12 を挟んで連結部 11 に上下に形成された係合孔 13 とフランジ部材 2 の楔孔 2 a とにわたって楔 14 を打ち込むことによって、単管 3 a をフランジ部材 2 に楔止めするようになっている。

【0024】

装置本体 7 である帯板状部材 7 A は、フランジ部材 2 の楔孔 2 a を利用して、単管 3 a に沿って取り付けられるようになっている。

【0025】

図 3～図 4 は、帯板状部材 7 A の取付順序を示すもので、支柱 1 には、横部材である単管 3 a、3 a がその連結部 11 とフランジ部材 2 にわたって楔 14 を打ち込んで楔止めしている状態が示されている。このように枠組みされた仮設足場の枠組み途上で、まず、図 3 の（a）に示すように、帯板状部材 7 A を水平な単管 3 a に対して上方に直立状に対向させて該帯板状部材 7 A の一端部の差し込み金具 5 の水平差し込み部 5 b をフランジ部材 2 に対して垂直状となし、この状態で矢印で示すように、該水平差し込み部 5 b をフランジ部材 2 の楔孔 2 a に上方から嵌合し、しかる後に（b）に示すように、帯板状部材 7 A を矢印で示すように、単管 3 a に沿うよう水平状態に回転させることによって、図 4 の（a）に示すように、前記差し込み金具 5 の垂直取付部 5 a がフランジ部材 2 の楔孔 2 a に嵌合位置し、前記水平差し込み部 5 b がフランジ部材 2 の裏面側に沿うように配置され、これによって装置本体 7 である帯板状部材 7 A の一端部がフランジ部材 2 に接した状態で差し込み金具 5 がフランジ部材 2 に係合し、且つ帯板状部材 7 A が単管 3 a に沿うように配置され、しかも帯板状部材 7 A の他端部の係合金具 6 が図 6 に示すように単管 3 a に係合するようになっており、係合金具 6 であるフック金具 6 a の先端部に取り付けたロック片 6 b が単管 3 a の下面側に自重で回ることによってロック作用を良好にするようになっている。

【0026】

さらには、図 5 に示すように、帯板状部材 7 A の一端部に設けられた回転防止金具 10 の水平当接部 10 b が支柱本体 1 a の側面に当接して、装置本体 7 である帯板状部材 7 A が単管 3 a から離反する方向にあるいは単管 3 a 側に倒れるのを防止するようになっている。

【0027】

図 7 は、建築資材 3 を装置本体 7 である帯板状部材 7 A に仮置き係合した状態を示すもので、図 1 に示す建築資材 3 の仮置き状態を側面から拡大した状態を示す。一般に仮設足場で枠組みされる手摺用あるいは支柱間連結用鋼製単管 3 a や足場板支持用ブラケット 3 b 等の建築資材 3 の端部は前述のように開口しており、この端部開口孔 9 を挟んで、フランジ部材 2 に差し込んで楔止めされるための二股状の連結部 11 が設けられている。

本発明は、この端部開口孔 9 や二股状連結部 1 1 の差し込み孔 1 2 を利用して、図 7 の矢印の方向に拡大して示すように、建築資材 3 の下端部を端部開口孔 9 や差し込み孔 1 2 を帯板状部材 7 A に突設した板状保持部 8, 8 a に嵌合し、拡大図に示すように、該保持部 8, 8 a の上端縁が差し込み孔 1 2 の内周縁に当接するようにして係合させ、建築資材 3 の上端部付近を、例えば上方側に枠組みされている足場台 4 の側面側に立て掛けさせることによって、建築資材 3 を直立状態に単管 3 a に沿って仮置き保持させるようになっている。

【0028】

このようにして、建築資材 3 を装置本体 7 に仮置き保持させることによって、例えば建築資材 3 が図 7 の仮想線で示すように、足場台 4 から離反する方向に倒れかかっても、建築資材 3 の下端部が装置本体 7 の保持部 8 に係合されて、装置本体 7 から脱落することがなく安全に仮置き保持させることができる。

【0029】

このように、装置本体 7 である帯板状部材 7 A が差し込み金具 5 と係合金具 6 との簡単な係合手段にも係わらず、確実に装置本体 7 をフランジ部材 2 と単管 3 a に取り付けることができる。また装置本体 7 をボルト止めなどの面倒な固着作業を必要とせず上記簡単な係合手段によって取り付けることができるため、その取付作業を容易迅速に行うことができる。さらにまた帯板状部材 7 A をフランジ部材 2 と単管 3 a とから離脱させる際には上記取付作業と反対の順序で行えばよいから離脱作業も容易迅速に行うことができる。このことは、例えば、建築資材 3 を用いて高所に向かって多段状に枠組みされるにしたがって、帯板状部材 7 A の取付位置をたびたび高所に移し替えなければならないが、本発明では上述のように帯板状部材 7 A のフランジ部材 2 や単管 3 a に対する取付や取り外し作業を容易迅速に行うことができるため、結果的に、仮設足場の仮設作業中での建築資材 3 の仮置き作業を能率的に行うことができることになる。

【図面の簡単な説明】

【0030】

【図 1】本発明に係る仮置き装置によって、枠組み途上の仮設足場に建築資材を仮置き保持させている状態を示す全体図である。

【図 2】本発明に係る仮置き装置の取付前の状態を示す斜視図である。

【図 3】本発明に係る仮置き装置の要部である装置本体の仮設足場への取付状態を示す図である。

【図 4】同装置本体の仮設足場への取付状態を示し、(a) は正面図、(b) は平面図である。

【図 5】同要部である回転防止金具の断面側面図である。

【図 6】同要部である係合金具の側面図である。

【図 7】同要部である装置本体への建築資材の仮置き係合状態を示す図である。

【図 8】従来の枠組み途上の仮設足場に建築資材を仮置き保持させている状態を示す全体図である。

【符号の説明】

【0031】

H	建物
A	仮設足場
1	支柱
1 a	支柱本体
2	フランジ部材
2 a	楔孔
3	建築資材
3 a	単管
3 b	足場板支持用ブラケット
4	足場台

10

20

30

40

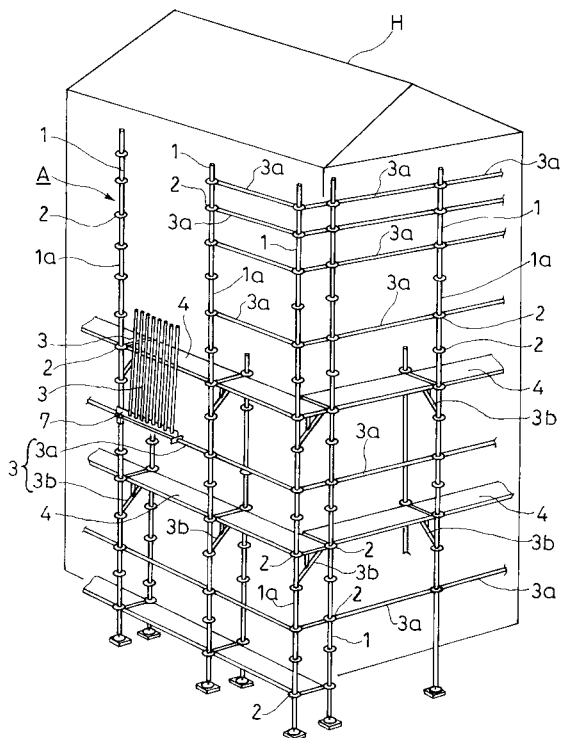
50

- 5 差し込み金具
- 5 a 垂直取付部
- 5 b 水平差し込み部
- 6 係合金具
- 6 a フック金具
- 6 b ロック片
- 7 装置本体
- 7 A 帯板状部材
- 7 a 水平片部
- 7 b 垂直片部
- 8 保持部
- 8 a 突状片
- 9 端部開口孔
- 10 回転防止金具
- 10 a 垂直取付部
- 10 b 水平当接部
- 11 連結部
- 12 差し込み孔
- 13 係合孔
- 14 楔

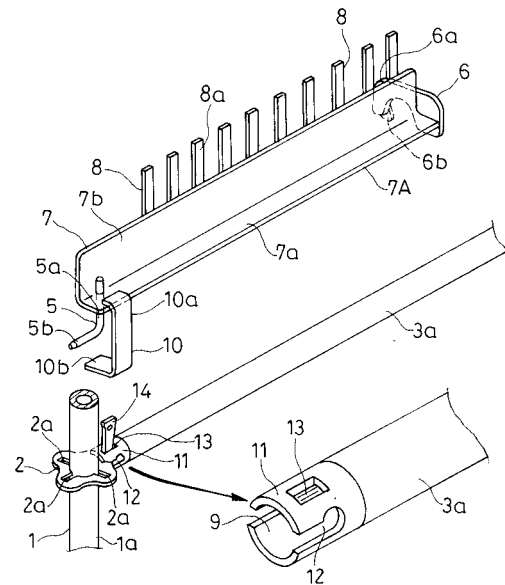
10

20

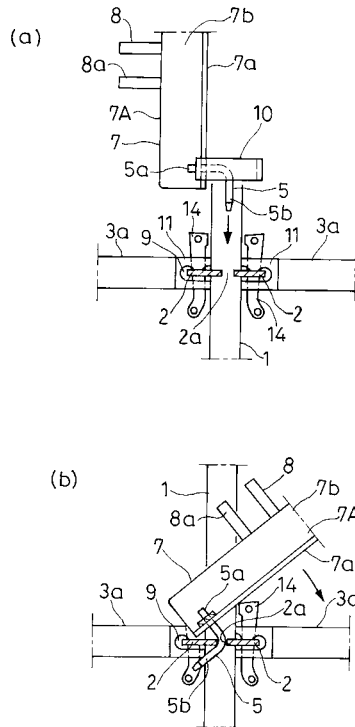
【図 1】



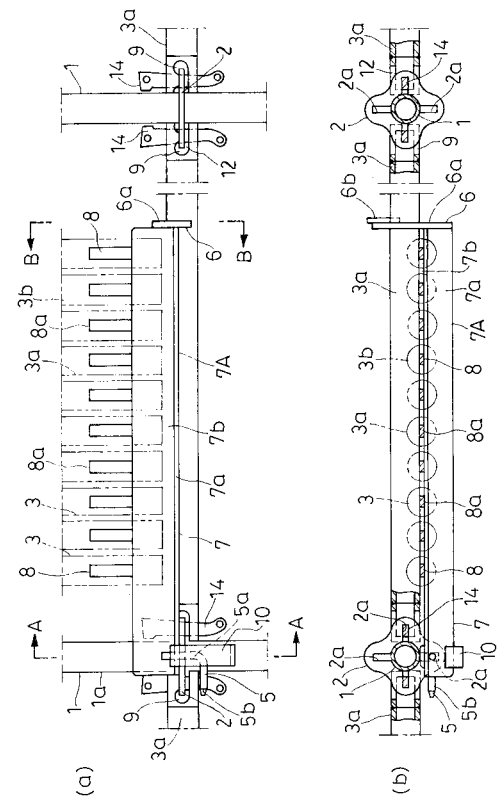
【図 2】



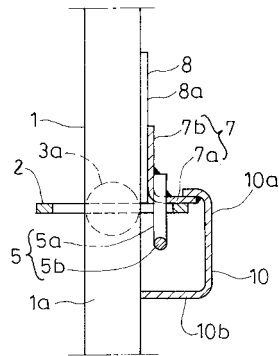
【図 3】



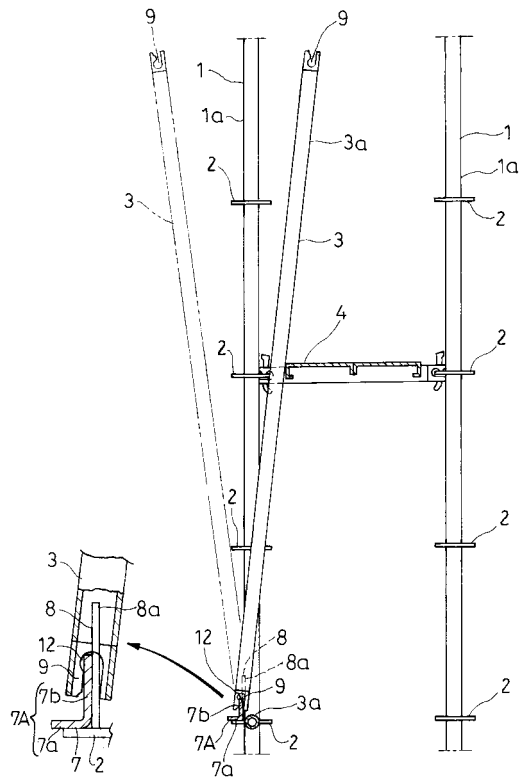
【図 4】



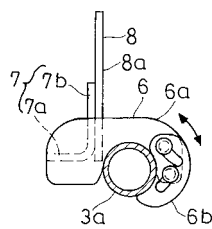
【図 5】



【図 7】



【図 6】



【図 8】

